

朝の礼拝

聖書 フィリピの信徒への手紙 4章 2-7節（新約聖書365頁）

わたしはエボディアに勧め、またシンティケに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。なお、真実の協力者よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

打ち明けていい

この手紙を書いたパウロは当時の地中海各地に福音を伝えた伝道者です。しかし迫害や分裂で試練は絶えず、最後は捕らえられローマへ送られます。その時の手紙です。特に彼と苦しみと共にしてくれたのがフィリピの仲間でした。それだけにパウロの思い入れも深く、喜びと感謝に溢れています。

ところが冒頭にあったようにエボディアとシンティケというふたりの婦人の間で争いがあったようです。パウロは信頼する仲間がこのふたりを支えてほしいとお願いします。そして「主において常に喜びなさい」と重ねて勧めています。ふたりの間に主なる神様が共にいると気づいてほしいのです。

ここで大切なのは、彼はどちらの側にもつかうとしていない、この争いの解決のために何も指示をしていないことです。「あなたがたの広い心が」「主は近くにおられる」「思い煩うのはやめなさい」、そして「願いと感謝の祈りを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい」と勧めています。

どちらも自分が正しいと思っている。互いに赦せない。神様はそんなあなたたちの思いを知っている。神様はすでにあなたたちを赦している。正直な思いを神様に打ち明けてもいい。神様はあなたたちを守るためにいつも共にいる、待っていると祈っています。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは十字架にかかり互いに赦し、愛し合うことのできない苦しみを共に負ってくださいました。そして愚かな思いや願いを超えて、あなたが共にいる幸い、平和を与えてくださいます。明日は中学卒業式、後期終業式、年度の終わりを迎えます。どうかあなたの導きと恵みに気づき、喜びと感謝のうちに新しい年度を迎えることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン